

学校教育目標

- 1 丈夫で明るくはきはきした子ども
- 2 よく考え進んで工夫する子ども
- 3 みんな仲良く きまりを守り 責任感の強い子ども。
- 4 ものを大切に感謝の心をもつ子ども
- 5 進んでみんなのために働く子ども



第3号 運動会特集号
海老名市立東柏ヶ谷小学校
電話 (046)232-3716
平成27年6月15日(月)発行
ホームページ
<http://www.touhakusyo.edu.city.ebina.kanagawa.jp/>

い(いきいき)の(のびびび)ち(かっぱい)かがやく 東柏っ子

<はじめに>

紫陽花の花が少しずつ大きくなり始めました。早いもので、六月に入りました。梅雨入りもすぐそこまで来ています。ところで、紫陽花の花言葉を知っていますか？驚くほどたくさんあるそうです。私は保護者の皆様講演園の機会をいただくこともあります。その中で、最後に紫陽花の花言葉の話をしてします。こんな花言葉があります。

「一家団欒、家族の結びつき」これは紫陽花の、小さな花びら（萼《ガク》）が寄り集まって咲いている姿からつけられた花言葉です。その花の特色から実はマイナスイメージの花言葉が多い紫陽花ですが、日本では「団結」「和気あいあい」などの暖かい解釈が多いようです。家族の結びつきを意味しているのなら、結婚式の装飾花やブーケとして、人気が出て来ているのも頷けますよね♪

この紫陽花が咲き誇る季節「一家団欒、家族の結びつき」を大切にしていきましょう。

<運動会を通してつきたい力>

5月30日(土)に第41回運動会が開催されました。天候がよすぎて熱中症に注意しながらの開催となりました。たくさんの保護者やご家族、地域の皆様の声援をいただきながら、練習の成果を発揮できたと思います。

連休明けから始まった練習は家庭訪問と平行しながら進めて参りました。初夏の風が心地よく感じた日もあります。しかしながら、熱中症の警戒情報や光化学スモッグの注意報が出る日もありました。子ども達は汗だくになりながら、一生懸命に運動会に向けて、先生方と一緒に練習を積み重ねてきました。一生懸命に取り組む姿は見ていた私たちに感動を与えてくれます。その発表の場が第41回目の運動会でした。1000人以上の方々子どもたちの活躍の場で声援を送っていただきました。そんな運動会は子どもたちだけではなく私たち教職員も育っていく力が多くあります。

運動会に向けて次のようなことを教職員に発信しました。

- (1) 集団で勝敗を競う体育的行事である。
- (2) 集団行動を多く伴う体育的行事である。
- (3) 高学年の児童が会の運営に関わる行事である。
- (4) 地域や家庭に広く公開する行事である。

以下にそのポイントと育てる力をあげました。

- 1 勝つために全力を尽くす全力でがんばる力、団結力・連帯感、体力の向上、フェアプレーの精神、勝敗への正しい態度等「集団で勝敗を競う体育的行事」であるのですから、ぜひ勝敗にこだわってほしいということ。

オリンピックで日本中が感動したのは、サッカーにしろ、バレーボールにしろ、勝利を目指してあきらめず全力で戦う選手達の姿に対してです。運動会でも、相手の組には絶対に負けない、という強い気持ちがあるから、その気持ちがあるからこそ、全力で走り、力を出し切ることができるし、運動会前の練習にも真剣に取り組むことができると思います。徒競走でたとえ1位になれなくても、順位を一つでも上げれば、1点分自分の組に点数が加算され、自分の組の勝利に貢献できる。そのがんばりを称賛したいものです。一生懸命取り組むことは周りの人たちに感動を与えます。

子どもを本気にさせる近道は、先生が本気になっていることです。練習を見ている、各学年の演技は特に感じます。子どもたちに表現する美しさが学年全体で協力するすばらしさ、思いが乗り移っていました。



←6年生による
組み体操

一生懸命に取り組む姿は、人に感動を与えるんだという気持ちをもって指導に当たっていました。

さらに、勝敗については、ここからがとても大事なのですが、「勝敗にこだわる」以上、絶対に落としてはならない指導があります。この指導を落とすと、デメリットが大きくなります。学習指導要領・学校行事の解説にも留意点として「各種の競技会などの実施に当たっては、いたずらに勝負にこだわることなく、…」と書かれています。これは、勝敗にだけこだわると、不正行為や優越感・劣等感を助長することになるからでした。以下の2つの指導は指導をしていただきました。

○1つめは、フェアプレーで戦うということです。反則やずるいことをして勝っても、ほんとの勝ちではないということ。正々堂々と戦って勝つのがほんとの勝ちである。ということをお子さんに伝えなければいけません。

○2つめは、勝敗の結果に対する正しい態度を教えるということです。勝敗の結果に対する正しい態度を教えないと、往々にして負けた方をさげすんだり、逆に、勝った方に対して悪態を吐く子がでてきます。ラグビーでは、試合が終わることを「ノーサイド」と言います。敵味方というサイドで戦っても試合が終わればノーサイドになって、お互いの健闘を讃え合います。サッカーなどでも、試合が終わるとお互いのユニホームを交換し合い、相手に敬意を表します。スポーツの素晴らしい一面です。赤組も白組もそれぞれ勝利をめざして一生懸命にがんばったことは同じ。「勝って驕らず、負けて恥じず」という言葉があるように、お互いの健闘をお互いに讃え合う気持ちが大切であるということが勝敗の結果を聞いた子どもたちの態度に出ていると思います。

○3つめは高学年が運動会を運営していくことに誇りをもたせる責任感、協力、自尊感情(自己肯定とも言えます)等。5・6年生の児童は、競技をしながら運動会の運営に関わります。これは、なかなか大変なことですが同時に、高学年の自覚をうながすチャンスでもあります。運動会には、家族の人ばかりでなく、地域の人やお年寄りも見にやってきます。その大勢の人たちの前で、自分たちが係の仕事を行い運動会を運営していくのです。係が動かなければ運動会は成功しません。そのことに責任と誇りをもつようにしたいものです。係で担当している子ども達に次のようなことを話して欲しいと思います。「君たちの仕事ぶりが、『運動会成功のカギ』です。低学年の子どもたちにとって『あこがれられる』存在になって欲しいこと。」と。



運動会を支える係活動

運動会終了後も、勝敗を越えて、係の仕事の責任を果たしたことについて太いに称賛してください。この運動会を通して高学年の自覚がさらに高まれば、素晴らしいと思います。

4つめは東柏小の「よさ」を地域に発信する表現力、発信力等運動会は、最大の「学校公開」行事です。日頃、学校、学年、学級便りやホームページで学校の様子を伝えていても、実際に子どもの姿を見れば、一目瞭然。百聞は一見に如かず。子どもの姿を通して、学校の教育力が分ります。日頃から、授業に一生懸命取り組んでいる個々の姿、集団での質の高さ、特に高学年のリーダーとしてのがんばりなどは、他校に誇れる東柏小の「よさ」です。

それを、競技、演技、運営の姿を通して地域に発信しましょう。そして、その「よさ」は、先生方の日々の指導と努力によって、子どもたちの身についたものです。この運動会を機会に、大いに東柏小のよさとともに、に本校教師集団の力も発信しようではありませんか。と発信しました。

学校は保護者や地域の方々に支えられて教育課程がすすみます。そのことは子どもの健全育成につながります。前日の準備では約50人の役員の皆さんが、校内や体育館、トイレの清掃や校内、校外の案内表示の仕事等をしていただきました。そして、地域の皆様には、テント張りや校庭のくい打ち、ロープ張り針等をしていただきました。当日は、大変暑い中、午前中は青健連の方々がいさつ運動を兼ねて子ども達の安全確保に努めていただきました。感謝の気持ちでいっぱいです。



1年生による表現



地域・保護者の皆様の片付け



紅白応援団長